

アセットマネジメント部門

応募事例名

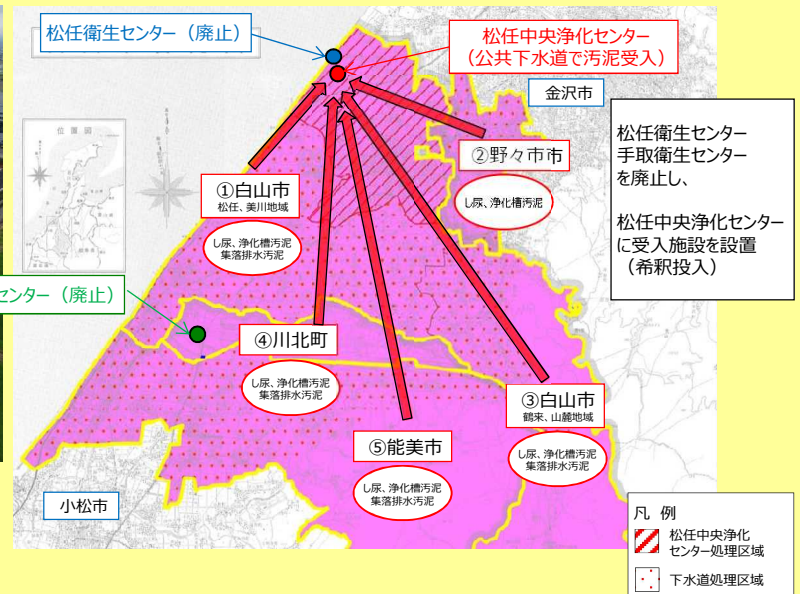
し尿・浄化槽・集排汚泥を3市1町による広域処理の実施

応募団体名)白山市

受入施設の完成写真



事業実施後の広域処理状況



応募事例の概要

白山市及び近隣自治体において、広域的に汚泥の一元的な処理が可能となり各々の自治体で経費の削減が図れた

PRポイント 老朽化した施設を抱えた二つのし尿処理施設組合の構成市町が話し合った結果は……「**広域化・共同化を図る**」で、各々の施設更新はしない、新たに用地を求め建設もしない、既設公共下水道処理場内に受入施設を設け広域的に一元的に処理しよう！

単独行政区や広域事務組合での実施ではなく、白山市・能美市・野々市市・川北町の3市1町によるし尿・浄化槽・集排汚泥を広域処理で実施！

MICS事業が下水道広域化推進総合事業に組み込まれてから全国で初めて、白山市がこの事業の採択を受け、実施しました！



白山市上下水道部下水道課 主幹 山崎 宏昭

事業の実施について、汚泥を処理するためには各種設備が必要であり、この施設の維持管理には多額の経費を要するため、少しでも費用面で合理化できないかという各市町の思いを集約して計画されました。計画の実行には国や県の関係機関毎の調整、市町との協議など多くの方々のご尽力によって、ようやく施設の完成となりました。今後は、関係法令などが今よりも更に整理され、汚水処理の広域化・共同化が取り組みやすい環境が整うことを願っております。